

PDF



3. 神戸層群から現在まで

研究学園都市やその周りの地層を手がかりにして、大昔の自然の変化をまとめてみます。

1. 火山活動と湖の時代

気候は温暖で、亜熱帯～温帯までの植物が繁茂していました。湖（古神戸湖）は垂水から三田市、東条湖あたりまでひろがっていたが、北から南へ移動したようです。この地質時代は新生代新第三紀中新世（ちゅうしんせい）で約1,500万年前のことです。（注1）地層の名前は神戸層群白川累層といいます。

2. 陸化の時代

地層が残っていないので、この期間は湖や海ではなく、陸化していたと思われます。約1,500万年前～約100万年前で新生代新第三紀中新世（ちゅうしんせい）～第四紀更新世（こうしんせい）にかけての時代です。

3. アカシ象とメタセコイアの森の時代

メタセコイアを中心とする落葉林と常緑林があった時代で、気候は温和でした。この森や草原には、アカシ象をはじめ、鹿も生活していました。六甲山地の西麓から淡路島、播磨灘にわたって湖がありました。約100万年前のこと、新生代第四紀更新世です。大阪層群明石累層の小寺層ができた時代です。

4. 暖かい海の時代

気候の暖化とともに、陸上は落葉林から常緑林へかわり、南から東洋象やマチカネワニなどが移動してきます。明石海峡から播磨灘にかけて拡大してきた海には、メジロザメが泳ぎ、シオガマサンゴなどがすんでいました。約50万年前で、新生代第四紀更新世、大阪層群明石累層高塚山層ができた時代です。

5. 広い海の時代

50万年以後、数回海が進入してきますが、およそ20万年前、大規模な海進がはじまり、明石海峡を通った海はどんどん拡がり、三木市、小野市をはじめ、播磨平野はほとんど海水におおわれます。播磨平野一帯にひろがる表面に赤茶けた色の土をのせる台地（高位段丘）は、この時期にできました。化石を含むほど海成層は厚くないので、当時の東播磨の自然史は充分解き明かされていません。約20万年前で新生代第四紀更新世、大阪層群明美累層ができた時代です。その後2回の大きな海の進入がありましたが、2回目の海が現在の海です。

注1 その後の研究で、神戸層群は、古第三紀、3500万年前のものであることが明らかになりました。

